

奥多摩を歩く

御岳周辺の散策

JR 青梅線で新宿から約 90 分の御嶽駅で降りると、そこはもはや高原。川合玉堂が描いた四季の景色があった。多摩川の両岸を散策できる。まず、片側の岸を探索しつつ御岳美術館を訪れ、帰りは向こう岸に沿って玉堂美術館へ向かった。急げば一周 2 時間ぐらいの行程を、ゆっくりとしたペースで「観て歩き」、約半日をかけた。

ちょうどこの日はカヌーの選手権が行われており、エメラルドグリーンの水にカヌー赤色が映えて見えた。陽の高さによって川面の色が変わるのが素晴らしい。エメラルド色の水の流れは、岩とぶつかって、小波と泡を発生していた。散策の時間をうまく選ぶと、ただ美しいだけでなく、水の流れがとてもよく観察できる。「川合玉堂写生帖・山水編(グラフィック社)」の素晴らしいスケッチ集と同じ景色だ。岩のそばで、流れの下から沸きあがる泡や渦を見ていたら、写生帖で玉堂が書こうとした水の躍動の秘密の入り口を垣間見たように感じた。

御岳駅前のバス停横に食堂があり、「鮎の塩焼き」「川えびのてんぷら」で一杯やるとこの上なくおいしい。

玉堂美術館

美術館の石庭は、御岳の山々を借景にして、四季を通じて美しい。玉堂の作品はもちろん素晴らしい。玉堂が絵を描いている姿がビデオで見られ、描くときの姿勢や筆さばきが、絵を描くものにとって大変参考になる。運筆がとても速く、鍛えに鍛えぬき、樹々枝ぶりがイメージどおりに、速いタッチで描かれていた。(このHPの「私の好きな画家」で少しだけ紹介している) スケッチ集や色紙は記念になり、お手本になる。入場料大人 500 円 入館は 16:00(夏場)まで

御岳美術館

パンフには「せせらぎの中の美術館」と謳われている。明治・大正・昭和の美術を展示している。多摩の作家や浅井忠・岸田劉生・藤島武二らの作品が展示されている。八ヶ岳の清春白樺美術館と同じく白樺派の椿・児玉など作品もなかなか素晴らしい。大作の横に展示された熊谷守一の小品「鬼百合」に惹かれた。気取らず気力が凝縮した小品は、大作の重心になっているかのように見えた。その絵には、子供のいたずら書きのような「クマガイモリカズ」と自署してある。

私が大好きな「熊谷守一のことば集」の表紙には、「絵でも字でも うまくかこうなんて とんでもないことだ」と書かれている。